

本庄早稲田駅の南側にある丘の岩石の調査の帰りに、駅の近くにある「本庄早稲田の杜ミュージアム」に寄ってきました。この博物館は主として、本庄市とその周辺の先土器時代から古墳時代の考古学的資料を収集・展示しています。

中でも古墳時代の埴輪のコレクションはすばらしいと思いました。学芸員の方が解説をしてくださり、いろいろと驚いたことがたくさんありました。まずは、本庄市の範囲の中でも約 600 基もの古墳が見つかっていること。もちろん、河内や大和、それに埼玉（さきたま）のような大きな古墳はありませんが、小さな前方後円墳や円墳あり、多くの副葬品が出土しているそうです。当の本庄早稲田駅建設の時にも、その真下にあたる古墳が一基「犠牲」になったのだそうです。上越新幹線は古墳の上を走っているということです。

多くの展示物の中でも特に心ひかれたのが、この「琴を弾く男子人物」という埴輪です。埴輪独特の「木の葉型の眼」がやや笑みを見せ、口元はギリっと引き締まっています。自信を持って、しかも楽しみながら琴の音を披露する、古代人のおおらかさが見事に表現された傑作だと思いました。今回はあまり時間がなかったので、もう一度ゆっくり鑑賞しに行きたいと思いました。

（2025 年 5 月中旬／埼玉県本庄市・本庄早稲田の杜ミュージアム／東十五子 23 号墳／5 世紀後半古墳時代）

